

社会や時代のニーズに合わせて シミュレーターやソフトを進化

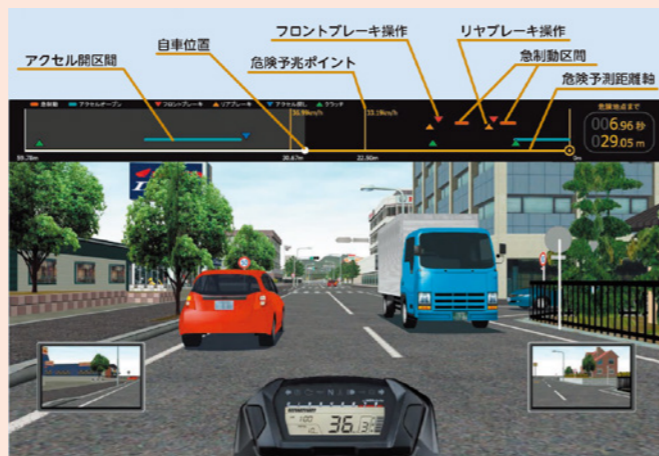
Honda は長年培った安全運転のノウハウを活かし、シミュレーターをはじめ、さまざまな交通安全の現場で活用していただくための教育機器やソフトを提供しています。そして、社会のニーズに合わせて進化させています。



3代目となる新型 Honda ライディングシミュレーター

指導の表現力を向上させた Honda ライディングシミュレーター

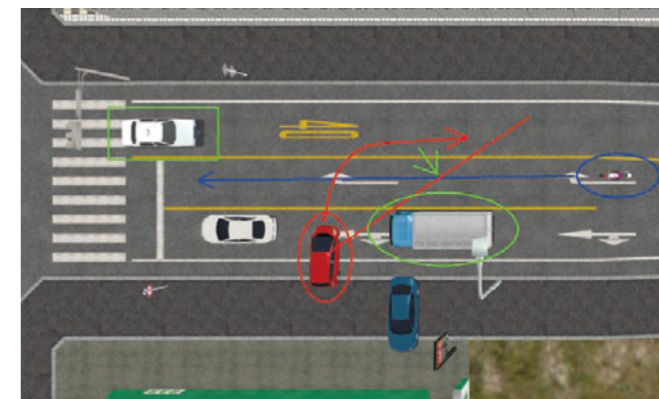
路上での実施が困難な二輪車の危険予測トレーニングを仮想空間で行える安全運転教育機器として開発したのが Honda ライディングシミュレーターです。1996年の発売以来、多くの自動車教習所で二輪免許の取得やライダーの再教育用として活用されています。昨年10月、運転シミュレーター型式認定基準が改正され、二輪免許の教習に新シミュレーターの運用が可能となりました。これを受け、今年11月にライディングシミュレーターをモデルチェンジ。3代目となる新型は走行中の危険箇所に対し、どの地点で危険を感じ取ったのか、その時の運転行動を記録し、走行再生時に表示する事で、より高度な危険予知能力を養うことができる「危険予測表示機能」など、危険予測の学習ができるソフトを充実させ、指導の表現力を高めました。さらに、より多くの教習所で活用していただけるよう軽量・コンパクト化を実現。コンパクトながらもAT車とMT車、さらに普通二輪車、大型二輪車のいずれの教習にも対応しています。



「危険予測表示機能」で走行時の操作を記録（画面はイメージ）
※平成25年10月18日 特許出願 特願 2013-217839



新型は省スペースを追求



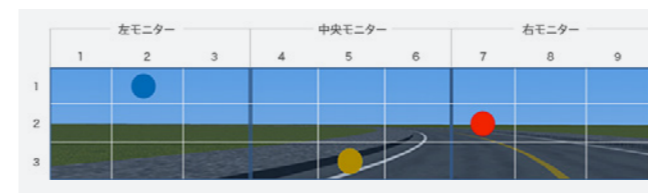
「描画ウインドウ」で指導ポイントをモニターに表示

路面種類	限界減速度 G	自車速度での 限界停止距離 m	余裕度
乾路面	0.7	14.1	○
濡路面	0.45	21.9	△
固雪路	0.15	65.6	×

余裕度（目安）：× ≦ 1.0 < △ ≦ 1.3 = ○

自車と他車の距離、自車速度から路面状況に応じた、運転の「余裕度」を分析・表示

リハビリテーション向け新ソフトの追加

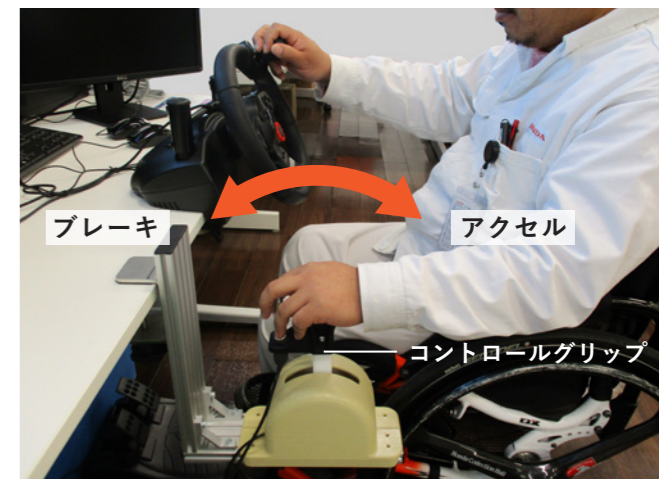


- = そのまま踏み続ける（何もしない）
 - = アクセルをはなして、またすに進む
 - = 右足でブレーキを踏んで、またアクセルを踏む
- 軽度な半側空間無視を検出するソフト
3種類のマークを画面内の2.7区画にランダムに表示する

高次脳機能障がいでお身体が不自由になった方はリハビリテーションを経て、社会復帰をめざします。その中には、運転の再開を希望される方もいます。このようなリハビリ中の方の運転に対する評価や訓練を支援するため、Honda は四輪用ドライビングシミュレーターの技術を活用して、「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト（以下、サポートソフト）」を開発。2012年の発売以来、多くの病棟施設がサポートソフトを導入し、実車による実技訓練と並行して運転を再開できるかどうかの判断材料として活用されています。今年、軽度な半側空間無視を検出するソフトを新規開発しました。従来通り3面ディスプレイを使用しながら、3種類のマークを各指定位置に表示し、あらかじめ決められたコースを走行検査します。マーク表示内容における正解率および誤反応回数と反応時間の平均値、道路走行車線からのズレ等を数値化し、よりきめ細かな結果を帳票として出力が可能となり、半側空間無視を評価できます。また、下肢が不自由な方がサポートソフトを利用、訓練する際に両手でアクセル・ブレーキ・ハンドル操作をするための手動運転装置も改善しました。



多くの病棟施設に導入されている「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」



改善された手動運転装置